

差出人: 大和@産業医大 yamato@med.uoeh-u.ac.jp

件名: 【産業医大タバコメルマガ_181109】①訂正、②お詫び、③昼休みの喫煙を禁止する理由、④「加熱式タバコは室内環境に影響しない」への回答

日付: 2018年11月9日 12:32

宛先: 大和大学メアド yamato@med.uoeh-u.ac.jp



121自治体を含む3023名のタバコ対策担当者様、EBTC会員、名刺交換・講演・原稿依頼をされた方へ 2401-3023
産業医科大学 大和より (受信者紹介歓迎。不要になった方は「不要」とお返事下さい)

①訂正

3日前に皆さまにお送りしたメルマガ【産業医大タバコメルマガ_181106】に訂正があります。

「③禁煙治療・加熱式タバコ講演会のお知らせ 12月15日東京」については、参加対象が限られております。大変申し訳ありませんが、下記についてご確認くださいませようをお願いいたします。

今回の講演会とワークショップは『東京都のニコチン依存症届出医療機関』の方のみが対象です。ただし、12月15日の講演会については席に余裕がある場合のみ、該当しない方にも先着順でご参加頂くことができます。案内が不十分で大変申し訳ございませんでした。

ご希望の方は、11月30日(金)までにお申し込みくださいますようお願いいたします。

なお、ワークショップは参加できる人数が限られているため、東京都のニコチン依存症届出医療機関のみを対象とさせていただきます。

【申し込み方法】 メールにて必要事項をお知らせ下さい。

宛先: jstop@outlook.jp

必要事項: お名前、勤務先、勤務先住所、職種、E-mail、電話番号、Fax番号

参加申込みの結果はJ-STOP事務局(jstop@outlook.jp)より、12月3~5日にメールでご連絡します。

②お詫び

同じく3日前のメルマガに添付されておりました「依頼文」は削除して頂けますよう、お願い致します。

③昼休みにの喫煙を禁止する理由

先日、勤務時間中は喫煙が禁止されている企業での講演をおこなった際、昼休みに喫煙させないためにはどうしたら良いのか? 昼休みの前半で喫煙すれば、タバコ臭が残る45分をクリアできる、と反論されるのではないのか? という質問を受けました。

喫煙後の口臭に残る三次喫煙は、測定器では45分で喫煙前のレベルに戻りますが、ヒトの鼻の方が敏感なので昼休みに喫煙すると45分以上経っていても臭いを感じる人は多く居ます。

「45分」は口臭であり、閉鎖式の喫煙室を使用した場合、衣服に付着するタバコ粒子から数日間にわたって有害ガスが揮発し続けます。

モクモクの居酒屋に連れて行かれたら、背広のタバコ臭が数日はとれません。

(残念ながら、この現象を分かってもらえない喫煙者が居ます)

昼休みだけでなく、勤務前・勤務の合間に喫煙すれば、三次喫煙の原因を職場に持ち込むことは避けられません。

消臭剤ぐらいでは臭いは消去できません。

アレルギー体質、つわり、の人達がいた場合、午後の勤務に支障がでます。

エチケットから考えても、多くの人は勤務日の昼食にニンニク餃子のような臭いが残るものを食べない、という配慮をします。

レストランで喫煙した場合は従業員に、コンビニ等の灰皿を使用した場合は通行人に受動喫煙が発生。

「望まない受動喫煙をなくす」という国の方針も決まったので、社としても取り組んで行く方針であること。

午前中吸わずに3時間我慢して昼休みに深く吸う喫煙を繰り返していると、自分にはタバコが必要、という思い込みを持ってしまふ。

その結果、いつまでもニコチン依存から脱却できない。

=社員の健康を損なう、健康管理が出来ない、妨げとなる。

タバコで健康を損なわないための「社員の健康管理」の一環であることを強調するように、と回答をしました。

④「加熱式タバコは室内環境に影響しない」への回答

ある方から、JTの発表にどう対応したらいいのか? と問い合わせがありました。

・非喫煙エリアにおいて粉じん・ニコチン等の濃度に有意な上昇はみられず

・個室であり、一般的な施設に備わる排気設備があれば非喫煙エリアの室内環境に影響を及ぼさない

https://www.bcncnretail.com/market/detail/20181006_88838.html

↑の記事はニコチン濃度の結果のみです。

粉じん濃度の測定も含めた元のプレスリリース、記者会見のニュースも行われております。

https://www.iti.co.jp/investors/library/press_releases/2018/pdf/20181002_01_appendix_01.pdf

JTのブルームテックは低温加熱式なので、高温加熱式のアイコスやグローに比べて、ニコチンの発生は数分の1しかありません。
(その分、使用者はニコチンの充足感を得られないことにも繋がっております)

JTのブルームテックは、厚生労働省の発表のように加熱式B（多分、アイコス）に比べて、ニコチンの発生量が少ない。
加熱式Bは明らかに喫煙エリアでのニコチン濃度の上昇がみられます。
統計的な有意差はなくても加熱式Aも上昇しているのは、口腔～気管支に残っていた成分が次の呼気で呼出されるためです。
測定器には検出限界があるので、非喫煙エリアの微量の汚染は検出はできなくても不思議ではありません。
しかし、そのことをもって「非喫煙エリアに影響を及ぼさない」と結論出来ません。
加熱式Bは明らかに喫煙エリアの空気を汚染している、ということは、
加熱式Aは単に汚染量が少なくて検出できない、というだけで汚染がゼロを意味するものではありません。
「従業員への曝露はある」ことが示された記事であり、飲食店に加熱式タバコを使用できるエリアを設けてはならないことの証明になっています。

と考えます。

そもそも、JTから長年研究費を貰っていた御用学者が監修した、メーカーのお手盛り実験です。
私達から見れば、「なに、ソレ」という内容ですが、グラフがネット記事になると扱いに困る人、
勢いづく人が出てしまうでしょう。困ったことです。

JTが100%出資する喫煙科学研究財団の裏情報と一緒に以下にアップしましたのでご覧下さい。

https://www.dropbox.com/s/pbaeqq1rlk82ufy/181109_%E3%82%BF%E3%83%90%E3%82%B3%E7%94%A3%E6%A5%AD%E5%8A%A9%E6%88%90%E9%87%91.pptx?dl=0

@@

807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室 大和 浩

ダイヤルイン：093-691-7473、学内PHS 4729、
直通FAX: 093-602-6395、学内用内線FAX: 8062、
ホームページ：http://www.tobacco-control.jp/

@@

807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室 大和 浩

ダイヤルイン：093-691-7473、学内PHS 4729、
直通FAX: 093-602-6395、学内用内線FAX: 8062、
ホームページ：http://www.tobacco-control.jp/

